

こうほう 広報 54 ごし

54 ぷろ
otari-54project

第2回

平成30年
1月発行

小谷村CATVでも大活躍中の恵ばあちゃん、ご覧いただけたでしょうか？交通体験会、糸魚川へのお買い物ツアー、高齢者と子育て世代へのアンケートなどを通じて、徐々におたり54プロジェクトの認知が進んでいるように感じますがいかがでしょうか？
今号では、引き続きおたり54プロジェクトの検討状況をお伝えしていきます。

《54ぷろを推進するための取り組み》

29年度は拠点運営組織や緊急度の高い生活支援サービスの具体化を進めています。

《これまで進めてきていること》



村内で暮らし続ける
ための住まいの整備

トレーラーハウス設置
(実証実験中)



高齢者の
移動手段確保

交通勉強会
交通体験会の開催



ICTを使った生活支援
情報連携整備

基盤 整備中



村外への
買い物ツアー

糸魚川方面へのツアー
(年度内3回を予定)

《これから進めていくこと》

- 複合拠点施設の設置＝いるところ
- つなぎ合わせる民間の会社 設立＝やること



恵ばあちゃん

(知らない人はCATVをご覧ください！)

他にもいろいろと進めていることはありますが、これからの54ぷろの基礎となる大きな動きは上記の2つです。
今年度から数年先まで続く長期にわたる計画です。

お問い合わせ先

0261-82-2589
(小谷村役場 特産推進室)

54ぷろが目指す

「いるところ」+「やること」の創出

おたり54プロジェクトが目指しているのは

「54集落ごと、すべての世代の誰もが自分らしく暮らせる村を実現する」こと。

そのためには、

「いるところ＝居場所」と「やること＝仕事、いきがい」が必要。

「いるところ＝居場所」

- ・多世代が共存し、交流できる場所
- ・仕事と家庭以外のたまり場
- ・安心していきいきと過ごせる場所

「やること＝仕事、出番」

- ・活躍できる場面
- ・雇用、就業の機会
- ・隣近所の困りごとの手助けの機会

「いるところ」と「やること」がある村には活気と安心が生まれる

地域が衰退すると、地域や社会のなかで「いるところ」「やること」がなくなりはじめ、そのことが原因で、さらに過疎・衰退を加速させてしまいます。反対に、「いるところ」と「やること」がある地域は、村に活気と安心が生まれ、転出者の減少・移住者の増加にもつながります。



でも、今はこの機能をはたせるところが村の中にはないなあ…。

それなら、おたり54プロジェクトでその機能をつくりましょう！



ということで、おたり54プロジェクトがこれから進めていくのが…

①いるところ＝複合拠点施設の整備

高齢者・子育て世代をはじめとした多世代、村内者や移住者が交流し「いるところ」となる場所をつくる

②やること＝つなぎ合わせる民間の会社設立

- ・54ぷろの旗振り役
- ・「やること」の創出を通じて、雇用・起業・継業・テレワーク・移住等を促進する

「いるところ」

複合拠点施設はこんなところ！

●目的	多世代の村民と村外者の「いるところ」を提供する複合拠点施設
●候補地	旧保育園跡地

機能① 安心できる住まい

※第一ターゲットは、高齢者

全てを手助けしてもらわなくても誰かに見守ってもらえれば生活できる元気な高齢者に、最後まで小谷村に住んでもらう！

- ・居住者をゆるやかに見守る（看取る）。
- ・高齢者の冬期、退院時の一人暮らしの不安を緩和する。
- ・小谷村に住み続けたい、という願いを叶え、不安なことを相談できる窓口を設ける。
- ・家族の安心を叶える。

賃貸住宅
・高齢者用
・家族、来客用



見守りサービス



暮らしの総合相談窓口



多世代交流

機能② 交流促進

※第一ターゲットは、子育て世代の女性

若年女性は人口増加の鍵！
でも、村内には母親達が集える場所が不足。
女性が集まれば男性も集まる！

- ・誰もが気軽に立ち寄れる。
- ・ちょっとしたお茶が楽しめて休める。
- ・イベントや活動、買い物など、村民が立ち寄りたくなるものがある。
- ・子どもを見守りながら仕事ができる。
- ・子どもを連れていても気軽に立ち寄れる。
- ・多世代、異分野、村内外者が訪れ、出会える。

キッズスペース



カフェ・食堂



各種イベント

地域交流
イベント

コワーキングスペース



仕事相談



「やること」

つなぎ合わせる民間の会社 設立

●目 的

“つなぐ” ことで “やること” をつくり、
独自財源を有する自立した民間法人組織をつくる

つなぎ合わせる民間の会社ってなんだろう？ どうして必要なの？

人口減少がどんどん進むと、商店や飲食店、ガソリンスタンドなど生活に必要なサービスが減少していきます。サービスが減ってしまうと、ますます生活しづらくなり、さらに人口減少が加速するという悪循環が生じます。そうならないように、生活に必要なサービスを“公共性のある民間の運営主体” が担いながら持続していく取り組みが全国各地で生まれています。

おたり 54 プロジェクトでは、国の政策や制度、行政の人事異動に左右されない実行主体を確立するため、“調整(つなぎ)役となる民間の会社” の設立を検討しています。

調整(つなぎ)役となる民間の会社は、既存サービスをつなぎ合わせて新たなサービスを生み出す事業者間の調整や、あらゆる仕事紹介による「しごと創出」により、小谷村に住み続けられる環境を創っていきます。

いま、検討しているのはこんなことです…。

◆事業内容

しごと・ひとバンク

- ①職業紹介業務(自主事業)
- ②移住促進業務
- ③生活を応援する事業者間の調整
- ④その他、制度のすき間を埋める事業など

拠点運営事業

- ⑤複合拠点施設「いるとこ」の運営管理

◆法人格の選定

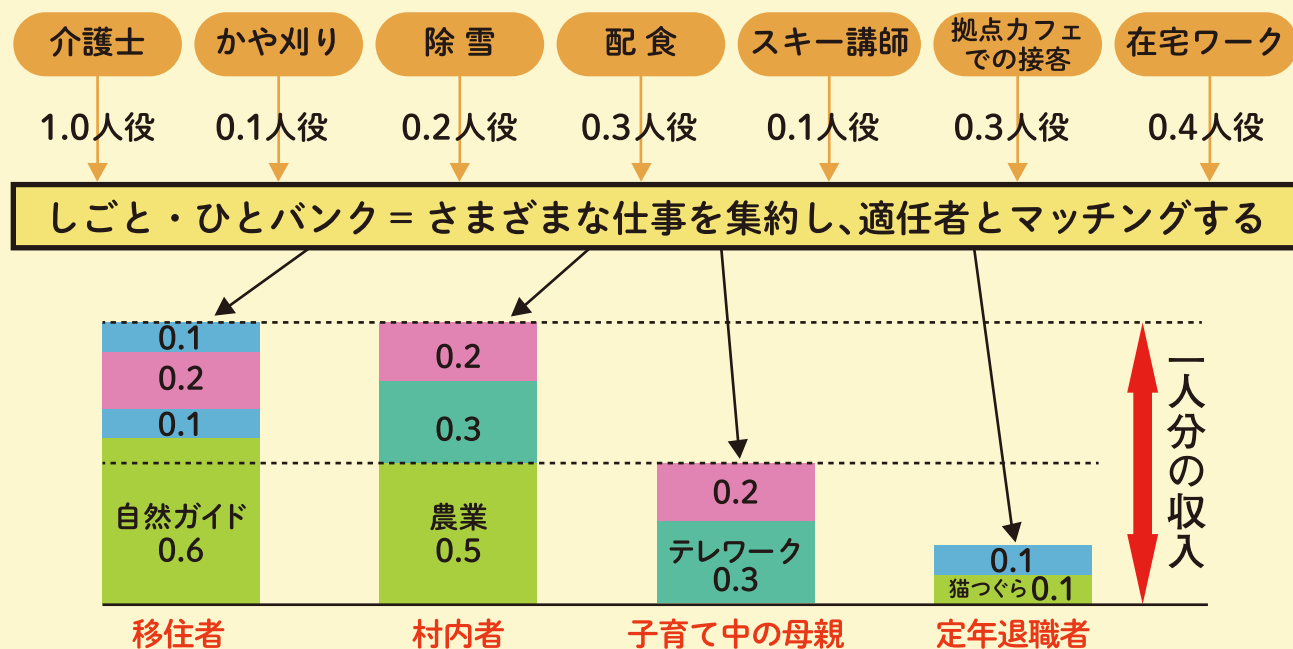
民間の会社 設立

- ①収益を上げ、経営の自立を目指す
 - ・経営理念
 - ・人員体制
- ②的確な人材マッチングを行うためのコーディネーターの統一
- ③法人格の種別の比較&選定 など

しごと・ひとバンクがつなぐ「やること」のイメージ

「小谷村は1人が十分に食べていく仕事がなかなか無い」と言われていますが、逆に0.5人が食べていくだけ稼げる仕事、0.2人分、0.1人分という小さな仕事はたくさんあり、それらの小さな仕事を組み合わせると1人分の稼ぎを得られる仕事となります。

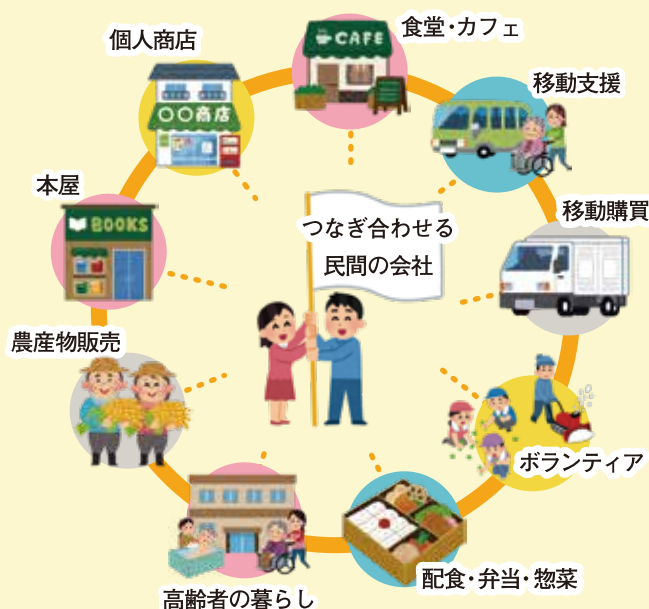
“しごと・ひとバンク”では、そのような村内で発生している小さな仕事のニーズを集約し、登録人材とのマッチングを図ることで、移住者を含む人材に仕事の機会を提供していきます。



生活を応援する事業者間の調整

小谷村には、村内で活動したい担い手が少しずつ増えています。それらの担い手同士が手を取り合うことができれば、新たなサービスを展開することができ、制度のすき間で困っている人が助かったり、より楽しい暮らしを実現することができます。

つなぎ合わせる民間の会社では、この担い手同士を結びつけ調整する“旗振り役”を担います。



●住民同士の支え合いの仕組みづくり

●村での子育て・地域の支え合い

に関するアンケート調査結果（速報版）

2017年10月～11月にかけて、小谷村では60歳以上の全村民、保育園・小中学校に通う子どもがいる家庭の皆様へ、アンケート調査をお願いしました。

このアンケートの目的は、昨年度実施した「小谷村で安心して住み続けるための生活ニーズ調査」の結果を踏まえ、「住まい」「移動」「日常の困りごと」等を住民同士でサポートし合う仕組みをつくるためのものです。

本頁では、速報版として、回答結果の一部を皆様にお知らせします。

※この調査結果は概要版になります。正式な調査結果は後日、改めてお知らせいたします。

住民同士の支え合いの仕組みづくりに関するアンケート

●調査対象者

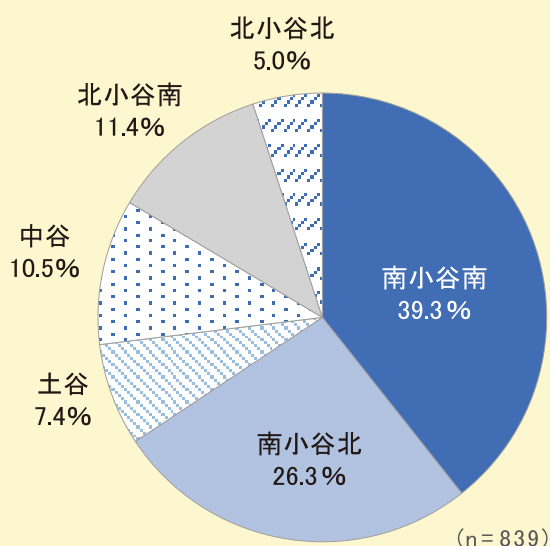
小谷村に住む 60 歳以上の全村民

●配布部数：1,289 件(未達 6 件除く)

●回収部数：856 件

●回答率：66.4%

●居住地域区分



村での子育て・地域の支え合いに関するアンケート

●調査対象者

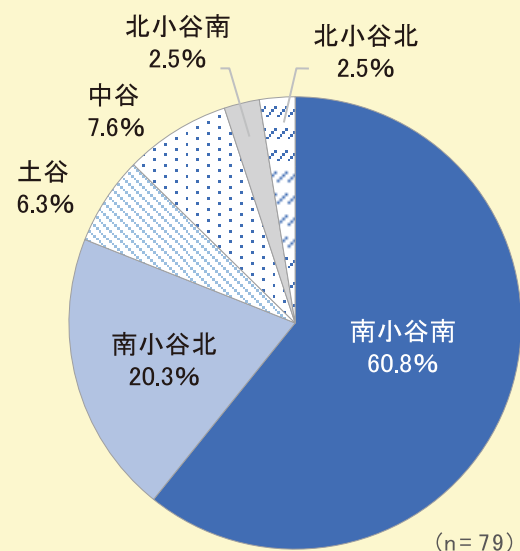
小谷村の保育園、小中学校に通う子どもがいる家庭

●村内園児・児童生徒数：244 人

●回答者園児・児童生徒数：128人(52.5%)

●調査票回収部数：81 件

●居住地域区分

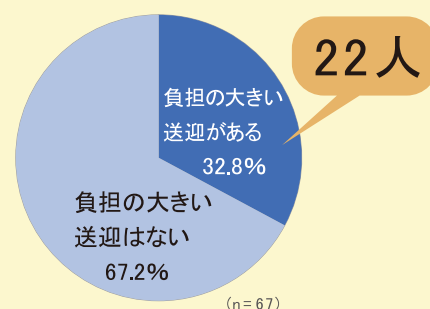


居住地 6 地域の詳細地区

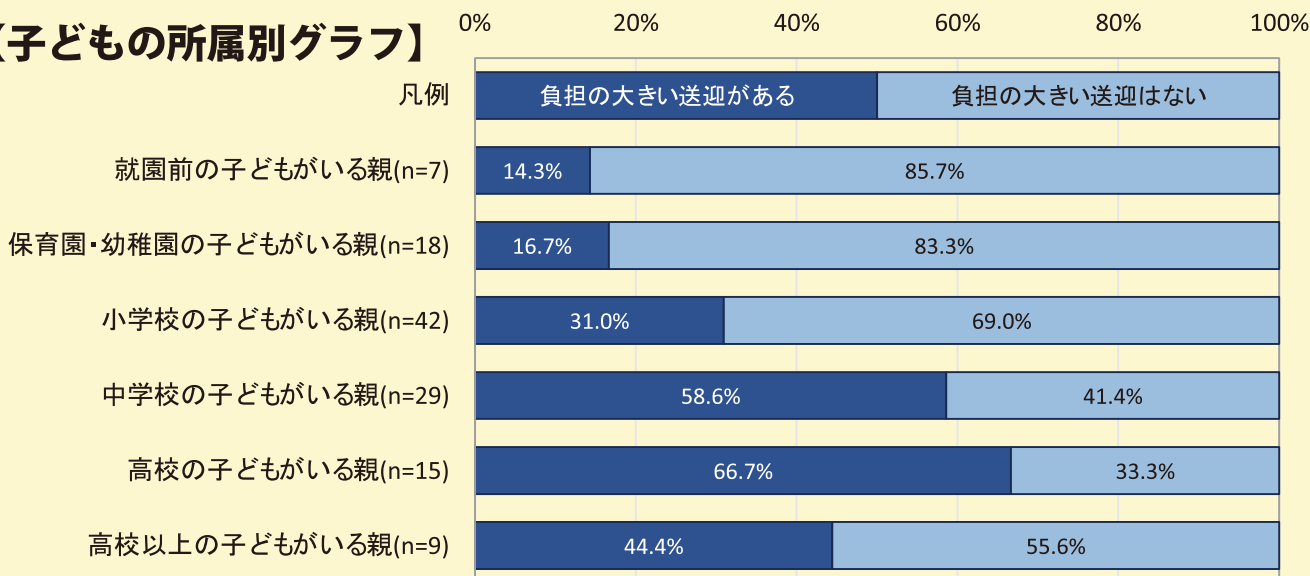
南小谷南	梶池南、梶池北、千国、五区、蕨平、峰・立屋・若栗、土倉、川上、黒川、月岡、伊折、里見
南小谷北	南雨中、北雨中、虫尾、下里瀬、池の平、平間、日道、池原下、池原、石坂
土谷	奉納、曾田、上手村、中通、太田、石原
中谷	白岩、瑞穂長崎、中谷東、黒倉、外沢、清水山、中谷西、松本、神久、千沢、高地、真木、大草連、田中、小谷温泉
北小谷南	来馬、下寺、島・塩坂、湯原、三ヶ村、深原、李平
北小谷北	大網、姫川温泉、戸土

Q. 土日のお子さんの送迎のうち、負担が大きい送迎はありますか？

- 回答者の32.8%が「負担の大きい送迎がある」と回答。
- 所属別では、中学校、高校の子どもを持つ親が「負担の大きい送迎がある」と回答する傾向にある。



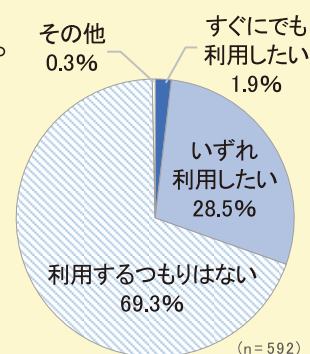
【子どもの所属別グラフ】



Q. 見守り付き住宅の利用意向

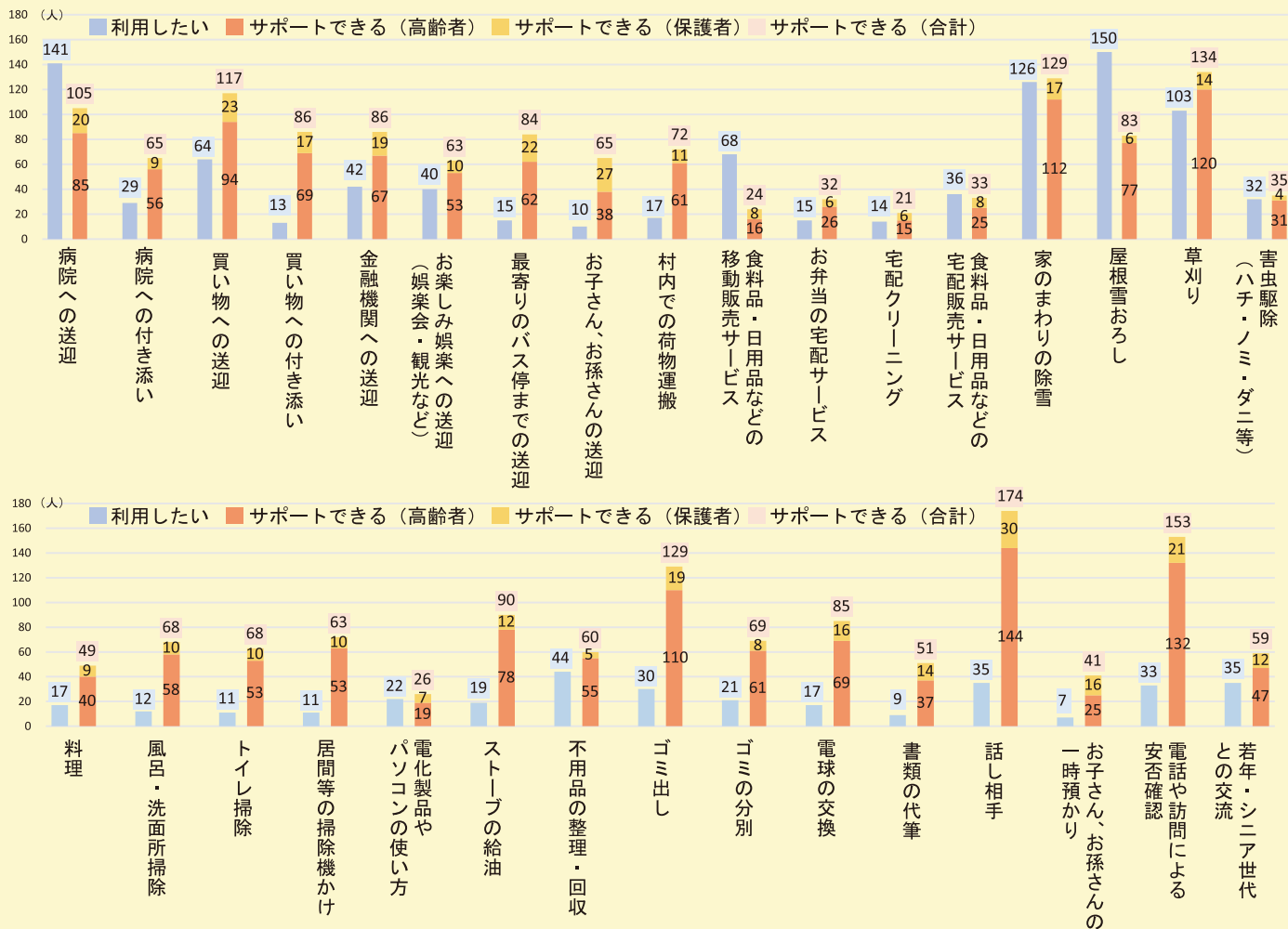
- 「すぐにでも利用したい」と回答した人は 11 人 (1.9%) であった。
- 「いずれ利用したい」と回答した人は 169 人 (28.5%) である。

	度数 (人)	割合 (%)
すぐにでも利用したい	11	1.9
いずれ利用したい	169	28.5
利用するつもりはない	410	69.3
その他	2	0.3
合 計	592	100.0



会員制の有料サービスの利用意向とサポートできること

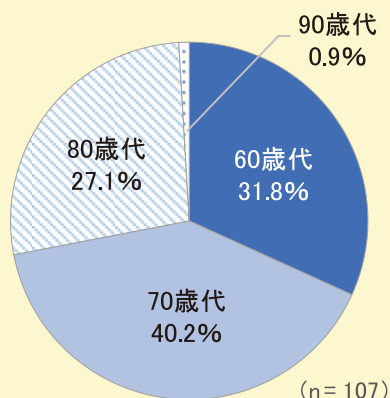
- 「利用意向」の値は、アンケートにご回答いただいた高齢者の数を表している。
- 「サポートできること」は高齢者と子育て世代に聞いているため、それぞれの値と合算値を示している。
- 「お子さん、お孫さんの送迎」「お子さん、お孫さんの一時預かり」は関連する項目に一つでも回答がある場合を回答ありとみなして集計。



住民同士の支え合いの仕組みづくりの取り組みへの記名協力者

- 小谷村では「住民同士の支え合いの仕組みづくり」に向け、村主催の勉強会や活動への参加の呼びかけをしています。その活動に協力できるとして、名前と連絡先を記載していただいた方は60歳以上では**115人**、子育て世代では**10人**いらっしゃいました。

記名協力者の年代 (60歳以上)



記名協力者の居住地

